

いずおおしま おおしままち
伊豆大島 (大島町)
 かざん い どうしょくぶつ
火山で生きる動植物



伊豆大島は東京都心から南に1,200キロの太平洋上にあります。島の中央には三原山という火山があり、今でも火山活動が続いています。

三原山の火口から下ると、溶岩の粒でできた黒い砂漠のような景色が広がり、ススキが見られます。ススキは草原をつくり、その上に木が生えてやがて森ができていきます。

さらに、噴火の影響は海岸まで見られ、ごつごつとした溶岩でできた磯が広がります。伊豆大島では、山頂から海辺まで、活火山が作り出したダイナミックな自然にたくさんの命が集まります。

【見られる生きもの】

ススキ	明るい草原に生えます。伊豆大島では、ハチジョウススキも自生します。
ヤブツバキ	11月ごろから花が咲きはじめ、4月の終わりまで見られます。伊豆大島はツバキ(椿)の島ともいわれています。
シチトウメジロ	本州のメジロとくらべ、体が少し大きく、クチバシも太く長いことで知られる伊豆諸島のメジロです。
台湾ザル(外来種)	名前のとおり、本来は台湾に住むサルです。畑の作物への被害などを及ぼすことがあります。
ウミウ	鋭いくちばしで、潜って魚を食べる鳥です。海に潜ったあとは、ぬれた羽を広げてかわかす姿が見られます。
イソヒヨドリ	オスは赤と青の派手な色が印象的です。磯に多い鳥でしたが、都市部でも見られるようになってきています。



イソヒヨドリ



シチトウメジロ

この伊豆大島だけでなく、東京には個性豊かな島々があり、それぞれに固有の環境もっています。そこに住む生きものを守るためにも、本来の環境を守っていくことが重要です。